



柳田 邦男 **Kunio Yanagida**

ノンフィクション作家・評論家

1936年 栃木県鹿沼市生まれ。東京大学経済学部を1960年に卒業、NHKに入局。社会部の遊軍記者であった1966年に「全日空羽田沖墜落事故」「カナダ太平洋航空機墜落事故」「BOAC機空中分解事故」を取材。のちにこれらの事故を追ったルポルタージュ「マッハの恐怖」を発表し、NHKを退職したのちもノンフィクション作家として活躍している。以前は航空評論家として航空機事故が発生した際にNHKに出演することも多かった。近年は事故、災害など「クライシス・マネジメント」に関する著書の他に終末医療問題など幅広い著書や評論を多く発表している。

- ・「マッハの恐怖」で第1回講談社ノンフィクション賞
- ・「撃墜」などでボーン・上田国際記者賞
- ・「犠牲（サクリファイス）わが息子の脳死11日」などノンフィクション確立・貢献で菊池寛賞
- ・「脳治療革命の朝」で文藝春秋読者賞

■主な著書

「石に言葉を教える」（新潮社）、「ボランティアが社会を変える—支え合いの実践知」（関西看護出版）、「もう一度読みたかった本」（平凡社）、「対談集 いのちの言葉」（三輪書店）、「家で生きることの意味—在宅ホスピスを選択した人・支えた人」（青海社）、「言葉の力、生きる力」（新潮文庫）（新潮社）、「壊れる日本人ケータイ・ネット依存症への告別」（新潮社）、「〈突然の死〉とグリーフケア（新装版）」（春秋社）、「〈人生の答〉の出し方」（新潮社）、「砂漠でみつけた一冊の絵本」（岩波書店）、「キャッシュカードがあぶない」（文藝春秋）